

「春の鎌倉を楽しむ会」の記録

平成15年4月13日、於高德院書院

4月上～中旬は鎌倉の花見にちょうど良い季節。加えて当日は、われわれを待っていたかのように清々しい空気と穏やかな日差しに迎えられ、楽しむ会は開催されました。会場は大仏様で有名な長谷の高徳院で、その素晴らしい枯山水調の庭園とゲストハウスを故原紀道先生のご縁でお借りすることができました。神奈川県皮膚科医会としては平成2年8月にピア・アーベント「皮膚科の医史学」を臨時例会として開催したことがありますが、皮膚科とは全く離れて、オペラを楽しみ酒を酌み交わしながら互いの教養を高め、感性を磨こうという会は初めての企画でした。

志なかばにして他界された原先生を偲びつつ、参加者が楽しめる会を企画しようと決まりました。日取りや会場さらにはプログラムと、例会とは違った試みに、この会を企画担当する菅原信、滝沢清宏、栗原誠一、増田智栄子、日下部芳志、金丸哲山の皆で「文殊の知恵」を出し合っ、少しずつつめていきました。この間の事情は、のちほどの増田先生の文章に詳述されています。

冬の某日、原和様に付き添っていただいて高徳院を尋ね、ゲストハウス（書院と呼ばせていただいた）で、ご住職の母堂である佐藤美智子様にお会いして、



爲樂當及時、何能待來茲（漢 無名氏）

神奈川県皮膚科医会
春の鎌倉を楽しむ会

平成15年4月13日(日)、午後1時より
於 鎌倉大仏殿 高徳院書院

開会のご挨拶 神奈川県皮膚科医会 会長 菅原 信

第1部 講演と演奏
丁 行く春、午後のひと時
オペラとピアノの調べを楽しみませんか？

歌者「ソプラノ、より 栗原の隆子	ハンタム
歌者「ソプラノ、より ユウリ・アキコを交えて	グループ
演奏「ピアノ」赤城山	三輪留良
歌者「ソプラノ、より 若原あやゆみの声	トニー
歌者「ソプラノ、より ハルカ	ミチコ

演奏者 メン・ソウイング、ハイランド シンバル

ソプラノの行か... 歌の...
開演に先立ち... 音楽の...

出演 内藤 明美 (メゾ・ソプラノ)
山崎 裕規 (ソプラノ & お話)
北村 晴子 (ピアノ)

ご挨拶 故 原 紀道 先生 余五人 原 和 様
神奈川県皮膚科医会 副会長 滝沢 清宏

第2部 書院と庭園で、ご自由に会話と茶菓をお楽しみください
閉会 午後4時

当日のプログラム

すぐに会場は決まりました。佐藤様の温かいホスピタリティーに加え、ちょうど良い広さの部屋と芝生のお庭、見上げれば“釈迦牟尼尊のハンサムなお顔”があり、会場は此処以外にはないと感じました。

会が始まり、オペラ入門の手ほどきをしてくださったのは山崎しげる様でした。斯界の熊楠と称される博学と巧みな話術に、音大の講師とは仮の姿で本業は何をする人かと疑いもしましたが、最後に歌われたネコの姿にホッとしました。

あっという間に時が過ぎ、中締めに滝沢副会長のご挨拶がありました。「紀道さん、僕は未だ行けない」には目頭が熱くなりました。

遠方より、加藤友衛先生、伊藤光政先生、服部瑛先生、台湾・日本・ブラジルを行き来している簡璋輝さんなど、多数の方が駆けつけてくださり、原先生の交友関係の広さを垣間見させていただきました。



斗酒凌乾坤 豪氣逼星辰 (夏目漱石)

第1部を楽しく可笑しく鑑賞したのち、見事な庭園で花見の会が始まりました。

鎌倉を楽しみました

中野政男



平成15年4月13日、鎌倉の春を楽しむ会の案内を受けて、日曜日の午後、鎌倉の大仏に出掛けた。

そもそもこの会は、任期半ばで倒れた原紀道前会長を、故人がこよなく愛した鎌倉の花の下で、只そのためにウィーンにまで出掛けたほどに執心していたオペラの話聞いて故人を偲ぼうという趣旨で、丁度鎌倉祭りの初日に当たり、長谷寺から大仏に掛けては大変な人出だったが、大仏殿高德院の書院に入ってしまうと、中は閑静な俗界を離れた別天地、芸術的教養の薫りに満ちていた。

定刻開会。第1部は、お寺で法話ならぬオペラのお話。

書院には椅子が並べてあって、「座り苦手人」の危惧は消散、幹事の配慮に感謝した。

お寺でオペラとは途方もない話で、何事が起こるのかと期待に満ちて待っていると、昭和音大講師の山崎裕視さんに、ギリシア歌劇に始まり欧州を瞬く

間に席卷したオペラの歴史と歌劇の背景となった物語を、ご自身のテノールと東邦音大講師の内藤明美さんのメゾ・ソプラノ、電子ピアノの北村晶子さんの伴奏で声量豊かにタププリ聞かせていただいた。

私は初めて知ったのだが「君よ知るや南の国」の歌は、小さいときにジプシーに攫われた娘が、各地を巡業しながら幼時の記憶を思い出して歌うという





物語だそうで、歌詞の

君よ知るや南の国／樹々実り花は咲ける／
風はのどけく鳥は歌い／ときをわかす胡蝶
舞い歌う

美しい声で歌われる歌詞はしみじみと胸を打った。誰もが知っていて、誰も終わりまで知らないこの歌を鑑賞出来たのは幸いであった。

「情景とアリア 赤城山」という山崎先生自作の歌は、まさしく国定忠治の叙情歌で“赤城の山も今宵限り”と脇差を捧げる情景は真に迫ったが、“泣くなよしヨシ ネン寝しな”が出てこなかったのは少し寂しく、矢張り浪花節はオペラにはなじまないのかと思った。

「メリー・ウイドウ」のワルツは中学生の頃、先生に隠れてひそかに口ずさんだメロディーを懐かしく思い出した。

お寺でオペラという企画は意外に楽しく面白く、十分に堪能した。

これで第1部終了、幹事の挨拶、原和前会長夫人のお話では故人が如何にこの鎌倉を愛したかが判って、この会の趣旨が理解できた。

副会長滝沢清宏先生の懺悔録みたいな挨拶にはたまげた。

第2部はお寺の庭園での園遊会。

参加者77名。それぞれが、席を見付けてお酒やワインを楽しんだ。和服を着た女性会員の美しさはまるで別人のごとく、加えて黒一点、内山光明博士の和服の見事さには感心した。矢張り古都では和服が雰囲気を高揚するのである。

庭園の美しい花と新緑の茂みの先には、大仏様のお顔が覗かれて、私は、原君がその高みから舞い降りて、誰彼の間を歓談して廻っている白日夢を見て

いた。

会場に皆さんの見知らぬ方が1人おられたが、この方は、原、加藤友衛、伊藤光政3氏の盟友Quatro Bros(4人兄弟)の1人、簡さんというブラジルから来られた方で、台湾出身の信義に厚い方で、原君の交友の広さと質を示す点景であった。

楽しい会でした。世話役幹事有り難う、ご苦勞でした。(2003. 04. 26)

(追記)

「君よ知るや南の国」の歌詞は、誰もが知っていて、終わりまで知っている人は珍しい。これはフランスのAmbroise Thomas作曲、Goethe: Wilhelm Meister Lehrjahreをもとにしたオペラ「ミニヨンMIGNON」の中で少女ミニヨンが歌う故郷賛歌で、上掲のものは堀内敬三氏訳とあるが、調べてみると邦訳が数多くあるのに驚いた。

君よ知るや南の国／レモンの花咲き／緑濃き葉陰には／こがねのオレンジたわわに実り／
……と言うのや、

君や知る、レモン花咲く国／暗き葉陰に黄金のオレンジの輝き／
……とか、

森鷗外訳は：レモンの木は花さき／くらき林の中に／こがね色したる柑子は／枝もたわわにみのり／
青く晴れし空よりしずかに風吹き／
……と明治調そのもの。

原文を調べてみると、フランス語のものが多く、ドイツ語のものもある。そして不思議なことに原文には「南の国」と言う字がないのである。

Connais-tu le pays ou fleurit l'orangerや、

Kennst du das Land, wo die Zitronen blueh'n

とあるだけで、一体誰が「南の国」を加えたのだろうか？

ドイツやフランス北部の冬の寒さと陰鬱さを思えば、南に憧れる気持ちは理解できるが、ハテモ面妖な事ではある。

楽しかった「春の鎌倉を楽しむ会」

増田智栄子（横浜市）



平成14年7月、原紀道先生が会長任期半ばに急逝された後の初めての常任幹事会で、栗原誠一先生から「原先生を偲ぶ会」を開きたいという提案があり、全員賛成でことは始まりました。「それでは、実行委員会の会員になって下さる方、挙手願います」原先生の笑顔やお世話になったことが去来してすぐさま挙手しました。

私は、確か平成8年か9年ごろ、今は日本臨床皮膚科医学会在宅医療委員会に吸収されましたが、「日本皮膚科在宅医療研究会」の発足準備期に、「神奈川県からはその日はみんな用事があるって出られないから、先生は往診をしているそうなので準備会に行つて欲しい」と栗原先生から電話がありまして、ひとりポツンと第1回目の準備会に出ました。その後何度か、新宿や中野にある東京都皮膚科医会事務所に会議に出かけ、その時に原先生と帰りご一緒することが2、3度ありました。これが、初めてお話をするきっかけとなりました。

横須賀線のグリーン席でおしゃべりを楽しんだわけですが、「中野政男先生が誘ってくださったのが始まりで、毎年、アメリカの西海岸の皮膚科学会に1週間ほど夫婦で出かけ、現地の皮膚科医と部屋に呼んだり呼ばれたりでいろいろ話すんだよ」「皮膚科医はオフィスで患者を待っているだけでは生き残れなくなるよ。アメリカでは、みんな美容の方向に行っている」等々。どおりで、アメリカの医療制度に精通していらっしゃる。

また、「先生ご趣味は」「ゴルフは腰が悪くなって遠のいているが、必ず行くのがオペラ。有名な歌劇団の日本公演は予定がどうであれまずチケットを買っておくんだよ。その日は早めに済まして早々に出かける。何とかなるもんだよ。好きなことは、自ら

時間を作らないとね」若輩の私に熱心にお話をしてくださって、頭の下がる思いでした。

その後、国保審査委員に平成11年6月から同時に就任しまして、皮膚科医の心得をよく聞かせていただきました。「院外の先生は大体500~600点、院内になると700~800点だね」私がおたおたしている間にいち早く傾向をつかまれて、平均点のダントツ高い施設には頭を悩ませられていました。皆さん、あまり悩ませないように。また、平均点数のあまりに低い先生にも、「皮膚科軟膏処置もしないで、皮膚科専門医といえるかね。薬を出すだけなら内科医と一緒にだ。専門医ならではの付加価値を出さないとダメだ」「医者はシャーマンだよ。教祖さんだよ。サイエンスだけじゃないんだよ。相手の気持ちを汲むことだね。何を望んでいるか。実際には、相性のあわない医者と患者というのもあって、それは相性のあった医者にいかれるのも双方の幸せ」サイエンスを知っている医者がいうから様になるけど、付け焼刃の私のような者が言っても単なる言い訳にしかありません。

平成14年末の国保審査会場にて、原先生のあと就任された向いに座っている栗原先生に、「栗原先生、





桃李春風一杯酒（宋、黄庭堅）

私も原先生を偲ぶ会実行委員会の一員になったけど、なんにもイメージがわからない。先生はなにか経験されたことはございますか」と話してみました。「いや、僕も経験ないんだ。お寺ですか、ホテルですか」「奥様の意向も反映しないとイケませんが、寒いお寺で坊さんのお説教だけはやめましょうね。やっぱり寒くないホテルのほうがいいかしら。永井隆一先生の時はホテルでした」「準備に時間もかかるから季節は春にしようと思う」「もし、お寺でされるなら、オペラはどうかしら。私、数年前のお正月に、薬師寺で平山郁夫さんが描いた經典の旅の開眼式をBSテレビで見たのですが、その時、寒いなか、お寺の廻廊で佐藤しのぶがオペラを歌っていて、荘厳な感じでいいなと思ったのを思い出しました。そういえば、原先生は大のオペラファンだったですね」「それもいいかもしれない。原先生の奥様に聞いてみる。僕の姉は声楽をしているから、そうとなれば人は頼める」

その後、栗原先生と原先生の奥様とで打ち合わせをされて、場所は奥様のツテで滅多に入れない鎌倉

大仏さまの高徳院書院に決まりました。

催しものは、昭和音楽大学声楽科講師の山崎ひろし様ご夫妻が一手にひきうけてくれることになり、会の段取りや、ピアノの手配も栗原先生がなされ、お菓子の方は原先生奥様がされて、実に用意周到に進めていただきました。私達実行委員はただ進捗状況の報告を聞くだけで、できることは当日のお天気を祈るだけでした。

4月13日は、祈りが通じたのか、前日の嵐がうそのように晴れました。障子の隙間からさわやかな風を感じ、オペラの実演と解説を聞きながら、また、私の隣には、オペラおたくの毛利忍先生がいらっしゃって、詳細な解説も加わり、二重に楽しいso niceな講義を聴きました。滝沢清宏先生のご挨拶はゆゆしき不倫の話でしたが、ウィットに富んでさすがと思いました。滝沢先生は、まだまだ遣り残しがあるので天上界には来るかと原先生に言われたそう。

また、外の空気が心地よく、お庭の桜の下にシートを敷いて、車座になってお酒を飲んでおしゃべりを楽しむスタイルのお花見を初めて経験しました。原先生奥様はじめ、美しい着物を着ていらっしゃった先生も何人かいらっしゃって誠に絵になるような庭園のひとつまでした。

心から春の鎌倉を楽しませていただいたことに感謝いたします。春爛漫とびきりの1日を神奈川県皮膚科医会の会員が自由に楽しく親交を深めることができたのは、原先生のお見守りがあったからではないかと心底思いました。

最後にみんなで大仏さまを拜んで帰途につきました。形式にとらわれない自由な気風がしっかり受け継がれているのを肌で感じました。

春の鎌倉を楽しむ会

塩谷千賀子

平成15年4月13日、大仏様の高徳院のゲストハウスをお借りして、行く春を愛で原紀道前会長を偲ぶ集いがありました。あまり湿っぽい会ではなく、それならいっそ原先生の好きだったオペラを聞きなが

らというシャレた会を栗原誠一先生が考えてくださいました。

当日はまさに春爛漫という天気にも恵まれ、77名プラス若干と多くの方に出席いただきました。（若

干というのは原先生と親しかった鎌倉市医師会浜田雅之会長の飛び入り等があったものですから)

そして演題は

『行く春、午後のひと時』

オペラとオペレッタの調べを楽しみませんか?』

演者 昭和音楽大学講師 山崎裕視氏

東邦音楽大学講師 内藤明美様

御夫婦ですが息ぴったりの熱演でした。山崎裕視氏は「斯界の熊楠」と異名を取る方だそうです、実際に和歌山県の出身とうかがいました。

私などオペラの基礎も知らなかったのですが、分り易く解説を交えて、赤城の山も今宵限りの国定忠治も立派なオペラになり易いという実演もあって、充分楽しませていただきました。(あとで思い出すとその部分だけがかなり強くインプットされていた嫌いがあったようですが)

会長、副会長の挨拶と思い出話、奥様の謝辞で1部を終り、その後は鎌倉ではちょっと有名なコクリコのサンドイッチの箱を抱えて庭にステージを移しました。ウーロン茶から日本酒まで心ゆくまで春を満喫したものです。きっと原先生も何処かでこの様



子をニコニコと眺めておいでだったと思います。そして一番この会を楽しまれたと確信しています。

女性会員も和服で参加された方もあり、いつもの例会とはまた趣を異にする会で、時にはこのような会も良いのではないのでしょうか。栗原幹事長ありがとうございました。またいつか、新しい企画期待しています。

それにしても内山光明先生の羽織袴姿決っていましたね。素敵でした。

最後に当日の写真を掲載いたしますが、伊藤仁先生のお撮りになったものを拝借いたしました。

後記／幹事長 栗原誠一



会が終わって企画担当の仲間と一緒に若手を誘ってご苦労さん会を開きました。昼と夜、じっくりと話をする時間を持って有意義でした。また、参加者から「楽しかった」とお手紙をいくつか頂戴し有り難うございました。機会があったら、またやりましょう。